

2023年9月11日
第3532号 for Residents

週刊(毎週月曜日発行)
発行=株式会社医学書院
〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23
TEL (03) 3817-5694 FAX (03) 3815-7850
E-mail: shinbun@igaku-shoin.co.jp
COPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

New Medical World Weekly 週刊 医学界新聞

医学書院 www.igaku-shoin.co.jp

今週号の主な内容

- [座談会] ER×研修医教育, 悲喜こもごも (宮前伸啓, 荒隆紀, 安炳文, 自閑昌彦) 1-2 面
- [寄稿] 忙しい研修医のためのAIツールを活用したタイパ・コスパ重視の文献検索・管理法(中島誉也)…………… 3 面
- [連載] スライド作成のABC…………… 4 面
- [連載] ER診療の勘どころ…………… 5 面
- MEDICAL LIBRARY…………… 6-7 面

座談会 ER×研修医教育, 悲喜こもごも



自閑 昌彦氏
宇治徳洲会病院
心臓血管内科/卒後臨床研修
センター センター長

宮前 伸啓氏
洛和会音羽病院
救命救急センター
京都ER 副部長
司会

安 炳文氏
京都第一赤十字病院
救命救急センター
副センター長

荒 隆紀氏
医療法人おひさま会
最高人事責任者

ER 初療に出始めたばかりの頃, 研修医の前に立ちはだかる壁はたくさんあります。その一方, 研修医を指導する立場にある上級医たちも, タイムプレッシャーがかかりやすい環境下でさまざまな難事に頭を悩ませながら日々診療と教育に当たっています。

本紙では, この度上梓された書籍『京都 ER ポケットブック 第2版』(医学書院)¹⁾の責任編集を務める宮前伸啓氏, 執筆を務める荒隆紀氏に加えて, 京都においてERでの研修医教育に携わる安炳文氏, 自閑昌彦氏を迎えた座談会を企画。研修医教育にまつわる悲喜こもごもをお話いただきました。

すると急に顔つきがしっくりきて, 苦手だった患者説明が上手くなっているなど猛スピードで成長する様子は, 何度見ても良いものです。

多忙な救命の現場で教えるということ

宮前 反対に, 研修医教育の難しさを感じる点はどのあたりでしょうか。

安 診療の忙しさと教育との間でバランスを取ることです。緊急度が高く余裕がなくなると教育よりも救命に集中しますし, その後のフィードバックのタイミングを見失いがちになります。研修医側も内省する時間を十分に取れないことがあるでしょう。一方で, 患者さんが少なすぎても勉強量が積み上がらないので望ましくありません。もちろん状況に合わせて調整はしますが, コントロールできない困難さといったところでしょうか。

また, 研修医のキャパシティは個人差が大きいため, その見極めと調整は指導医の腕の見せどころかと思えます。総じて, 画一的な対応ができないことにERでの研修医教育の難しさがあるのかもしれませんが。

荒 タイムプレッシャーがかかると, とにかく手を出そうとするタイプと, はたから見ているしかできないタイプの研修医に二分される印象があります。安先生のおっしゃるように, 救命に寄ること教育が後回しになるのは当然のことだと思いますが, そうした場で研修医は研修医なりに罪悪感を覚

えていることも多いはず。私自身, ERでの研修期間中はどうしようもない無力感に悩んでいました。上級医の仕事の横で見ていて, 果たして同じことを自分ができるようになるのだろうか……と不安に思い, 先輩から「自分も昔はそうだった」との話を伺って不安が少し和らぐこともありました。

安 到達度に関して言うと, 「ERで面倒を見るからにはこのレベルには到達させないと」といった思いを以前は強く抱いていましたが, 最近はもう少し気楽な考えにシフトしてきました。

宮前 何かきっかけがあったのですか。
安 ERでの2か月間は頼りなかった研修医と, その半年くらい後に夜間の業務を共にすることがあったのですが, 以前の姿からは想像できないくらいテキパキと仕事をこなせるようになっていて驚いたという体験を契機に, 考え方が徐々に変わっていったように思います。無理矢理2か月の間に詰め込もうとしなくても, 研修期間は他の診療科を含めて2年間あるわけですから, 自分に合ったペースで各自学んでいってくれるのかなど。ある意味で研修医を信頼するということなのかもしれません。

宮前 こちらが押し付けようとしても, そのまま吸収してくれないことのほうが多いですからね。それぞれの学習ペースを尊重するのは大切だと思います。

荒 加えて研修医の立場からすると, (2面につづく)

宮前 臨床では, 少なくない時間を割いて上級医たちが研修医の指導に当たっています。本日は, そこにある魅力ややりがいはもちろん, 悩みや困り事についても率直な意見を共有することで, より良い教育環境の醸成につなげられればと考えています。安先生, 自閑先生にはERでの教育に携わる指導医の立場から, 荒先生にはかつて当院で初期・後期研修を行い, 卒前教育とERでの診療のギャップに驚いて『京都 ER ポケットブック』を上梓された立場から, それぞれお話しいただければ幸いです。どうぞよろしくお話ししたいと思います。

不確実性に共に対峙する面白さ

宮前 ERでの研修医教育に継続してかかわるモチベーションがどこにあるのかを, まずは伺いたいです。

安 研修医は必修科目としてERで12週以上研修を行いますから, 必然的に彼らと苦楽を共にする時間が長くなります。それだけの期間をERで過ごしてもらうのならば教育の質を高めたいと, 自然と考えるようになっていきました。

自閑 若い人たちと一緒に仕事をしていく面白さは確実にありますね。主訴や重症度に幅がある患者さんが次々に

舞い込む不確実性の高いフィールドで一定の期間を共に過ごしていると, 人と人とのつながりが深まる実感があります。難しくよくわからないことと一緒に取り組む面白さです。単純化すると, その楽しさがあるから続けているだけと言ってもしまえる気もしています。指導医として何かを授けてあげるというのではなく, 一緒に困難を乗り越えてみようよといったスタンスで臨んでいます。

宮前 難しいこと, わからないことがある時のほうが面白いという側面はあるかもしれません。

荒 ERでは不確実性に向き合う場面が多いという事実が, 大変ではあるものの面白さに直結するのは同感です。不確実性ゆえに上級医といえども常に怖さが付きまといまいます。そうした状況であるからこそ外してはいけない要点は押さえていく。押さえるべき勘どころを研修医に伝える中で, 教える側でも言語化が進む楽しさがあるでしょうし, 研修医が教わったことをスポンジのようにぐんぐん吸収して変わっていく様を見るのもまた喜びにつながるのではないのでしょうか。

宮前 研修医の変化が目に見えるとうれしいですね。初めは学生の頃の名残りが強かった研修医が, 1~2か月

●本紙で紹介の和書のご注文・お問い合わせは, お近くの医書専門店または医学書院販売・PR部へ ☎03-3817-5650
●医学書院ホームページ (https://www.igaku-shoin.co.jp) もご覧ください。

9 September 2023 新刊のご案内 医学書院

ジェネラリストのための 内科外来マニュアル (第3版)

編集 金城光代, 金城紀与史, 岸田直樹
A5変型 頁888 定価: 6,600円[本体6,000+税10%]
[ISBN978-4-260-04266-6]

DSM-5-TR 精神疾患の 分類と診断の手引

原著 American Psychiatric Association
日本語版用語監修 日本精神神経学会
監訳 高橋三郎, 大野 裕
訳 染矢俊幸, 神庭重信, 尾崎紀夫, 三村 将, 村井俊哉, 中尾智博
B6変型 頁480 定価: 5,500円[本体5,000+税10%]
[ISBN978-4-260-05219-1]

職場のメンタルヘルスケア入門

編集代表 宮岡 等
編集 淀川 亮, 田中克俊, 鎌田直樹, 三木明子
B5 頁256 定価: 3,740円[本体3,400+税10%]
[ISBN978-4-260-05319-8]

患者の意思決定にどう関わるか? ロジックの統合と実践のための技法

尾藤誠司
A5 頁248 定価: 4,180円[本体3,800+税10%]
[ISBN978-4-260-05330-3]

ケースで学ぶ抗菌薬選択の考え方 耐性と抗菌メカニズムの理解で深掘りする

著 小川吉彦
監修 矢野寿一, 笠原 敬
B5 頁328 定価: 6,380円[本体5,800+税10%]
[ISBN978-4-260-05238-2]

病態生理と神経解剖からアプローチする レジデントのための神経診療

監修 塩尻俊明
執筆 杉田陽一郎
B5 頁392 定価: 5,720円[本体5,200+税10%]
[ISBN978-4-260-05246-7]

多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクトラム障害診療ガイドライン2023

監修 日本神経学会
編集 「多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクトラム障害診療ガイドライン」作成委員会
B5 頁320 定価: 6,160円[本体5,600+税10%]
[ISBN978-4-260-05353-2]

イラストでまなぶ生理学 [Web講義動画付] (第4版)

田中越郎
B5 頁244 定価: 2,970円[本体2,700+税10%]
[ISBN978-4-260-05120-0]

イラストでまなぶ薬理学 [Web講義動画付] (第4版)

田中越郎
B5 頁268 定価: 2,970円[本体2,700+税10%]
[ISBN978-4-260-05121-7]

<出席者>

●みやまえ・のぶひろ氏

2006年昭和大学医学部卒。浦添総合病院にて初期研修の後、洛和会音羽病院にて救急科、外科後期研修。11年東京都済生会中央病院心臓血管外科研修、15年倉敷中央病院 EICU 研修などを経て、17年より現職。責任編集に『京都 ER ポケットブック 第2版』(医学書院)。



●あら・たかのり氏

2012年新潟大学医学部卒。洛和会音羽病院にて初期研修の後、同院呼吸器内科後期研修。18年関西家庭医療学センター家庭医療学専門医コースを修了、同年より現職。著書に『京都 ER ポケットブック 第2版』(医学書院)、『在宅医療コアガイドブック』(中外医学社)。



●あん・びよんむん氏

1998年京府医大卒。京都府下で5年間小児科研修の後、国立成育医療研究センターにて小児救急の研修を行う。外傷や外因系疾患の経験を積むために成人の ER を志し、2004年湘南鎌倉総合病院、京府医大救急医療学教室勤務を経て、22年より現職。



●じかん・まさひこ氏

2011年京大医学部卒。宇治徳洲会病院にて初期研修の後、同院にて救急総合診療科、循環器内科後期研修。21年より同院卒業後臨床研修センター長。編著に『当直医マニュアル2023 第26版』(医歯薬出版)など。



ヤップを私自身が日々感じているからです。年齢がそう変わらない間は許されていた距離の近いコミュニケーションも、年齢差が開くにつれ難しくなります。指導医側が絶えず調整を図らないといけませんね。

まずは研修医の人となりを知ることから

安 教える側一教わる側の関係性で言うと、合う・合わないの相性も無視できないファクターです。固定ペアにする合わない場合に研修医が辛い思いをするので、複数の目が届くような形式にするか、いっそペアを作らなくても良いと考えています。

自閑 相性は確実にありますね。年齢が近いからといってうまくいくわけではないのも難しいところです。

宮前 そうした情報は先生のところに集まってくるのでしょうか。かなり個別的で込み入った情報だと思いますが。

安 研修医からは直接言にくいでしょう。困り事があれば何でも相談するよう伝えてはいるものの、周囲のメンバーを介して情報が伝わってくるが多いです。情報が手に入れば、もちろん調整を行います。

荒 私が初期研修をしていた当時の音羽病院では、救急科でのローテーション時は初期研修医と後期研修医がペアを作る制度が敷かれていましたが、組み合わせは日替わりなので一応の逃げ場はありました(笑)。

宮前 当院でもいろいろな形を実際に試してみて、より良い方法を常に模索しています。しかしフォーメーションを決めて診療に当たっても、結局は患者さんが押し寄せて事前の想定通りに動けないことしばしばです。

自閑 どのような患者さんがいつやって来るのか、ER では特に読みにくいですからね。

ペアを作ることに限っては良い側面もあって、教える側一教わる側がうまくマッチした際には研修医の爆発的な伸びが期待できます。研修医が指導医に対して尊敬の念を抱いて、少しでも近づこうと懸命に努力する、指導医もそうした研修医の姿勢を目にして一層仕事に励むようになる。デメリットにも目配せしながら、良い側面を引き出せると良いのかなと思います。

宮前 うまく機能するペアやチームを

作るに当たっては、当人たちのキャラクター性や背景を良く知っておくことが必要なかもしれません。私は新しい研修医が ER にやって来た際に、人としてのベースにどのような背景を持っていて、院内ではどのようなローテーションを経てきたのかなど、マンツーマンで1時間ほど話を聞くようにしています。そうすると、一見おとなしい

気負いすぎず、緩やかなサポートをめざす

宮前 現場教育において難しい点と言えば、振り返り・フィードバックの時間をどう確保するかも挙げられます。やりっ放しにしないためにも必要であることは間違いのないのですけれど。

荒 私が後期研修医だった頃には、当直上がりの初期研修医とそのままと一緒に振り返りを行うことがよくありました。医師の働き方改革が進む昨今、褒められたことではないかもしれませんが……。

安 時間が取りやすいのはどうしても業務後になってしまいますね。熱心に振り返りを希望する人もいれば、時間外は対応したくない人ももちろんいて、基本的には時間外を避けながらケースバイケースで対応しているのが実際のところなんです。ただ、大きな失敗があったケースは直後に振り返ったほうが教育上効果的なのは、悩ましいです。

自閑 同感です。加えて、失敗後すぐにフィードバックしてあげれば本人の中でもある程度整理がついて、業務後の時間をもやもやしながらかつて済むでしょう。

宮前 全てのケースの振り返りを機械的に行うのは難しいでしょうから、今後は必要なケースに絞って日常業務の中にうまく埋め込んでいく工夫が求められるのかもしれないですね。

患者さんとのコミュニケーションの指導についてはどうでしょうか。うまく教えるのが難しい領域だと思われま

安 トラブルに直結する部分なので気を遣います。研修医が上級医をまねて患者さんに砕けた口調で話すようになってしまい、修正が難しいことがあります。

荒 hidden curriculum ですね。勝手に背中を見て学んでしまっている。

安 そうした場合、私自身が丁寧な言葉遣いで患者さんに接している様子をあえて見せて、研修医が学んでしまったのとは異なるコミュニケーションスタイルもあるのだと示すようにしています。必ずしも全員に響くわけではないので、直接指摘することも時にあります。

自閑 患者コミュニケーションに問題があると思われる研修医がいる場合には、直接的に指導するのではなく個別に面談の場を設けて、まずは本人の話を聞いています。あまり管理的になりすぎないようとの意識からです。こ

研修医でも、明確な目標を持っていたり、学生時代や社会人生活での経験から自分なりの医療への考え方を構築していたり、その人なりのスタンスが見えてきます。研修医一人ひとりに対する解像度を上げておくことで、他のスタッフとの関係性に問題が生じた際に介入することが容易になるはず

ちらが彼らのことを管理対象として扱うことで対立構造ができてしまったりは悲しいです。こうあってほしい研修医像と現実のギャップに苦しむことがよくありますが、それは指導医側が勝手に期待しているだけのことで、研修医は研修医なりに必死にやっているのですよね。例えば研修修了から10年が経過し、ひとかどの医師になった彼らが「そういえばあの時指導医にこう言われたな」と思い出してくれることがあれば十分なのかもしれないと近頃は思うようになりました。

安 わかります。指導医としてかかわる以上、成長させてあげなければとつい気負ってしまうのですが、思い入れを強くしすぎることが研修医にとって必ずしも良いとは限らないのだと、本日をしながら改めて感じました。一緒に学ぶ中で研修医が実力を伸ばすことにコミットしつつ、一方でコミットしすぎずにある程度は流れに任せるようなバランス感覚を持ると良いのでしょうか。

荒 指導医の先生方が葛藤しながらも日々提供している教育は、将来のさまざまなフィールドで生きてくると思われます。私は現在、在宅医療のフィールドで管理者の立場にありますが、往診に出る医師を見て、研修医の時点ですっきりとした救急対応を身につけておくことの重要性を日々再認識しています。在宅医療の臨時往診対応ではリソースが少ない中、心理・社会的、個別的な対応を行うために見通しを立てる力が求められ、ER 研修はそうした力を養う格好の場です。今後は救急科専攻医の先生方の研修先に当院の在宅医療の場を提供するなどのコラボを実現できればと考えています。

宮前 不確実性の高い中で患者さんの全体を診るという ER のフィールドにおいて、他施設でも似たような悩みを抱えながら仕事をされていることが共有できて、勇気づけられました。今後も相互に情報共有しながら、より良い教育環境、実践共同体を作っていければと思っています。(了)

●参考文献

1) 洛和会音羽病院救命救急センター・京都 ER (編) 京都 ER ポケットブック 第2版。医学書院; 2023.

(1面よりつづく)

教育を行う側のばらつきも気にかかる点かと思えます。救急科専門医がたくさんいる施設ばかりではない中で、医学教育にあまり熱心でない医師が指導に当たるタイミングもあるはず。そうした場合、研修医側からは質問等をしづらい状況もあるでしょう。ですから、専攻医くらの年代の医師がどの程度研修医教育にコミットするかが大事なのだと思えます。Residents-as-Teachers と言われますが、認知的にも空間的にも近接している先輩が指導医的役割を果たすことで、教育側のばらつきをある程度補完できるのではないかと考えています。

自閑 専攻医サイドにインセンティブが乏しい問題はあるものの、専攻医による指導は効果的でしょうね。というのも、研修医とのジェネレーションギ

救急診療のバイブルとして、**ぜひ白衣のポケットに!**

◆ ER研修の壁を乗り越えるサポーターとして、上級医の頭の中を言語化してコンパクトにまとめました。

◆ 第2版では皆が躓くERでのポイントを意識した改訂。

◆ 主訴別アプローチの「アタマの中」は文字+イラスト+フローで図示し、緊急性の高い病態対応の大きな幹をイメージ化。

◆ コンパクトでありながらオールカラーでわかりやすい!

京都 ER ポケットブック 第2版

編集: 洛和会音羽病院救命救急センター・京都 ER
責任編集: 宮前 伸啓 執筆: 荒 隆紀

◆ A6 頁528 2023年
定価: 4,180円(本体3,800円+税10%)
[ISBN 978-4-260-04988-7]

目次 I 原則編 II 検査編 III トリアージで考える主訴別アプローチ編 IV 治療編 V 特殊分野編 VI 使える! ERの覚え書き

救急診療のポイントを押さえた初期研修医・救急に携わる若手医師、必携のマニュアル

救急レジデントマニュアル 第6版

救急・ERの現場で求められる実践的な情報をコンパクトな判型に詰め込んだ定番のマニュアル。①症状から鑑別診断と治療を時間軸に沿って記載、②診断・治療の優先順位を提示、③頻度と緊急性を考慮した項目立て、④教科書的な記述は思い切って省略し救急診療のポイントに絞った内容で、救急室で「まず何をすべきか」「その後何をすべきか」がわかる! 初期研修医・救急に携わる若手医師、必携のマニュアル、待望の第6版。

監修 堀 進悟
編集 佐々木淳一

B6変型 頁594 2018年 定価: 5,280円[本体4,800円+税10%]
[ISBN 978-4-260-03539-2] 医学書院